

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概要

歩行名称	近畿4
歩行区間詳細	スタート地点:田曾浦(三重県度会郡南伊勢町)
	ゴール地点:神前浦(三重県度会郡南伊勢町神前浦 288-2)
実施期間	2017年10月24日~28日
全歩行距離	69km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	横山泰一	13期	4	
2		甲田征三	12期	4	
3		甲田みつえ		4	
4		住山 茂	12期	4	
5		芳森佳子	OPUWV	4	

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	10月24日	田曾浦~五ヶ所浦	13	横山、甲田征三・みつえ、住山、芳森	
2	25日	五ヶ所浦~礪(さざら)浦	18	同上	
3	26日	礪(さざら)浦~東宮	19	同上	
4	27日	東宮~鶴倉園地~神前浦	19	同上	
5	28日	神前浦からタクシー・JR等で帰宅	0	同上	

4. 費用

(1)参加費

参加者延べ日数 5×4=20 人日

参加費合計 2,000 円

(2)費用概算(横山の場合)

交通費 23,220 円 (内訳: JR 17,000 円、近鉄 3,580 円、バス 940 円、タクシー 1,700 円)

宿泊費等 36,200 円

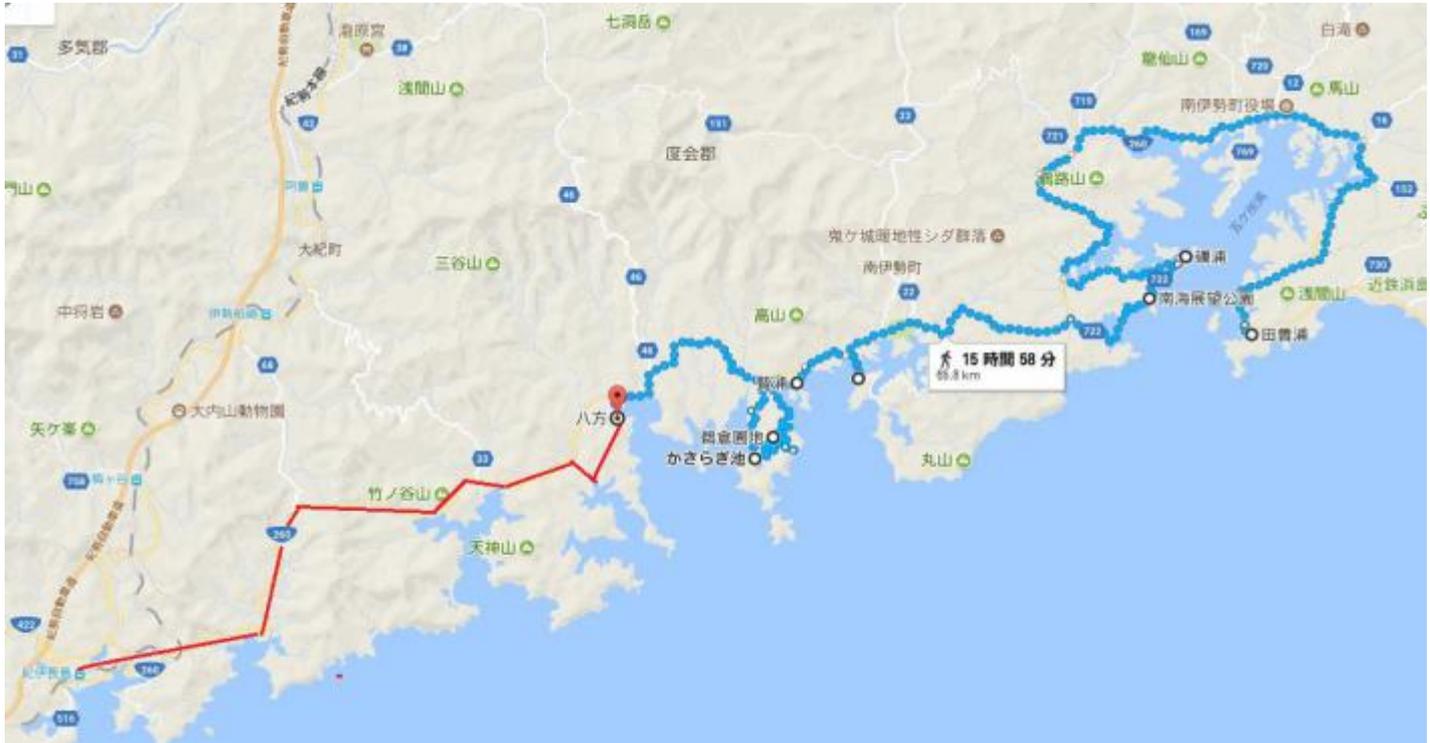
昼食等 6,600 円

合計 46,020 円

5. 歩行の詳細

計画では JR 紀伊長島駅まで歩行する予定でいたが、台風 22 号の影響が週末には出そうな天気予報であったため 27 日に歩行を終了し、28 日に帰宅するよう計画変更を余儀なくされた。歩行開始直前に台風 21 号が通過し、三重県に記録的な豪雨をもたらせた。その影響が各所にあり、帰りの足である紀勢本線は 26 日に不通が解除され、山間部の道路でも折れた枝や葉が散乱し、歩きづらい部分もあった。紀勢本線の情報は地元の人がほとんど利用していないことから店や宿泊先では運行状況がつかめなかった。駅まで行ったこともないひともいて驚いた。今後紀勢本線を利用する機会が増えるので要注意である。

歩行ルート



——— 実際に歩いたルート

——— 計画したが歩かなかった部分

10月24日

名古屋から近鉄特急で鶴方駅に到着し、昼食後にバスで前回のゴール地点田曾浦へ出た。ここ田曾浦は、かつてはカツオ漁が盛んな漁港で、現在は伊勢エビや鯛などの養殖がおこなわれている。12:10に田曾浦を出発して国道260号線を歩く。やがて道端のポールに赤旗を掲げている漁師がいたので話しかけた。夕方から雨で伊勢エビ漁中止の相図を出しているところだった。漁の行われる日は午後3時に一斉にスタートして競争で漁場へ向かい、網を仕掛ける。翌朝網を引き揚げてエビを捕るそうだ。天気予報では午後から雨、漁師も雨だといっているの为先を急ぐことにした。旧道が曲がりくねって国道と交差しているが、最短距離の国道を歩く。広い歩道が整備されていて気持ちよく歩ける。



田曾浦スタート地点にて



漁港前で漁師と話す。円形タンクは養殖水槽

しばらく内陸を歩くと木谷の集落に出た（14:00）。小さな浦を囲むように斜面に家が並んでいて、急で長い階段が付けられている。趣のある集落で農作業していたお年寄りに許可を得て写真を撮らせていただいた。ここからは国道は浦を伝って通っている。アオサノリや真珠の養殖場が続く。



木谷の集落



家並が印象的

下津浦に着くと（14:45）へんてこりんな看板が出ていて、力持ちのお坊さんがいたこと、田山花袋がこの地を訪れたこと、夕陽の絶景が見られる場所として有名であることなど、この集落の案内が書かれている。夕陽を楽しめる天気ではないので素通りした。田山花袋については帰ってから調べ、われわれとほぼ同じコースを歩いていることがわかり、それぞれの場所で紀行文に触れることにする。



アオサのり養殖場



下津浦の面白い看板

やがて五ヶ所湾の最奥部分に入り、15:06 神津佐（こんさ）の交差点を左折して五ヶ所へ向かう。伊勢地方から難読地名には悩まされてきたが、この地名も読めない。農産物販売所でみかんを売っていた。覗いて試食してみたら美味しかった。1kgの袋詰めで売っていたので荷物になるからと半分だけ買った。ミカンはここの特産物で五ヶ所の高台で栽培されている。16時前から雨が降りだした。16:20 民宿 HIROYA 到着。



到着時の記念写真

10月25日

雨のち曇り

雨の中の歩行になるため2班に分けることにした。中間地点を押淵口バス停とし、宿から歩くA（住山・芳森）班とバスで押淵口へ行きそこから歩くB（甲田夫妻・横山）班とに分けた。

A班（芳森・住山）は9時に宿をスタート。スタートしてすぐのコンビニで昼用の弁当を買って、国道260号を雨にもめげず快調に歩く。内瀬（ないぜ）の集落に着くと「里の駅ないぜしぜん村」と書かれた綺麗な店があり、ここでトイレを借用して店のオバチャンと談笑。明るく感じ良い人でみかんを貰いさらに売り物の蜂蜜レモンキャンデーまで頂戴してしま

った。

雨も小降りになってピッチも上がり、後半組の乗ったバスに抜かれた地点は中間点に近い所だった。そこで前半組の終了予定の中間点押淵を過ぎても後半組を追うことにして、迫間浦(はさまうら)手前で追い付いた。



A 班出発



里の駅内瀬にて

B 班は 10:00 に宿を出発し、コンビニで昼用の弁当を買ひ、南勢野添 10:37 発のバスに乗って押淵口で下車。バスは途中で A 班を追い越したが押淵口の 1 つ手前のバス停近くまで歩いていたのに驚いた。雨はやみ、A 班の到着を待たずに 11:10 スタート。国道 260 号を歩く。11:40 迫間浦入口に到着。A 班が追いついてきたことを確認し、国道を離れ迫間浦漁港へ寄り道することにした。ここ迫間浦は鯛の里とのことで入り口には大きな鯛のモニュメントがある。



B 班が歩き始めた押淵口付近



迫間浦入口

12:00 A 班 B 班が合流し、迫間浦漁港で昼食

12:20 歩行開始。国道まで戻り、海岸沿いの道を進む。

13:10 三浦バス停付近、礫（さざら）浦への分岐手前で休憩。磯で作業している人に話しかけた。先日の台風で川から小石が流れ込み養殖網を破壊したので小石を除去しているところだった。



礫浦漁港



台風で傷んだアオサノリ養殖場で作業する人々

13:28 礫浦への分岐 国道を離れ礫浦へ向かう。

13:43 ネットワークリゾートなんせいで休憩。ここはトレーラーハウスがあり、釣り、カヌー、クルージングなどが楽しめるところ。トイレを借りた。少し歩くと大きなヨットが係留されているので覗いてみた（13:58）。海遊人マリーナと看板が出ている。ちょうどヨットマンらしき人がいたので、金がないから歩いていると話しかけたら、暇があつていいなと言われた。大きなヨットの持ち主で、2ヶ月ほどかけてイギリス等へ出かけてレースに参加すると話してくれた。金はあるけど暇がないそうだ。うらやましい。



ネットワークリゾートなんせい



海遊人マリーナでヨットマンと話す

さらに歩いて礫浦に出る。高台の宿へは森の中の登山道のような細い急坂を登り、心細くなった頃やっと宿に到着した（15:17）。宿からは五ヶ所湾が一望できた。五ヶ所湾が一番すばまった所にあり、すぐ先は熊野灘の絶景が望める。



浦から浦へ峠を越える



礫浦に近い



礫浦



宿の民宿ニューはまぐち屋

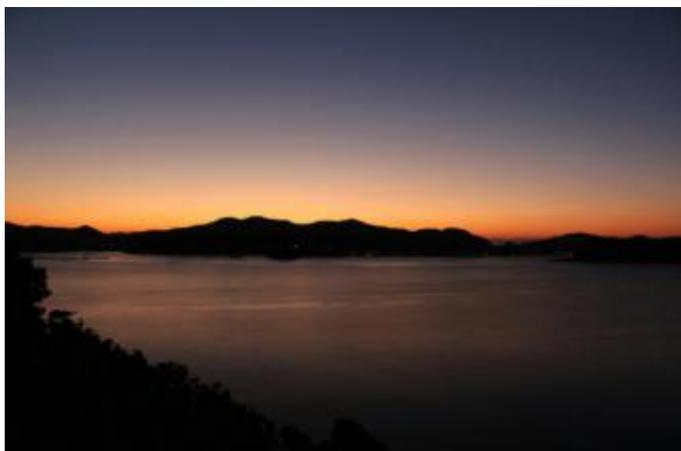


小さな灯台のある小島は地形図で「大島」と呼ばれ、その先に熊野灘が広がる

10月26日

快晴

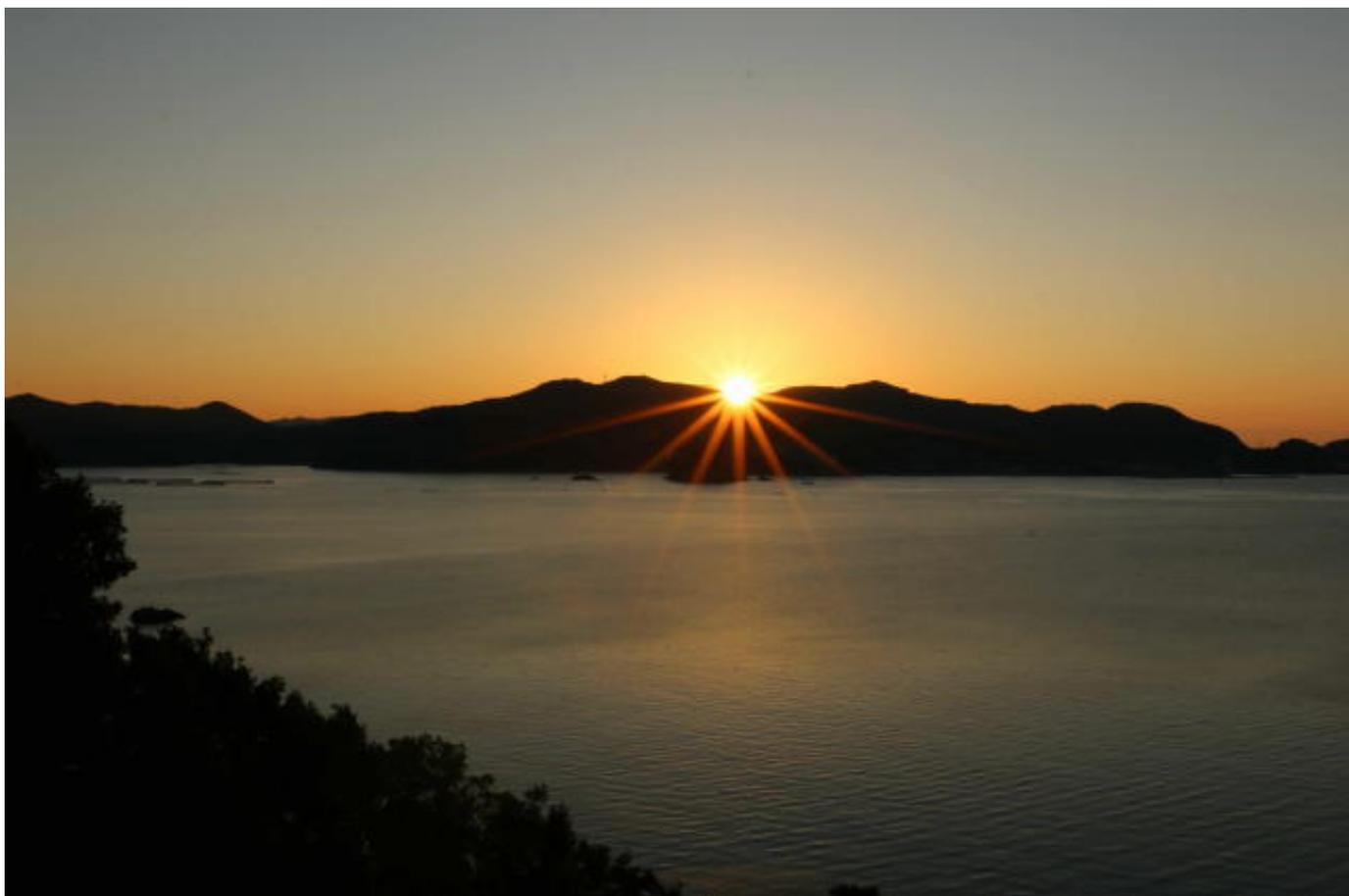
高台にある旅館は見晴らしがよく、しかも2階の一番海側の角部屋に泊まれた。期待通り朝日が部屋から見られた。この日歩く南島町には何か所か食堂があるが、到着時間が少し遅くなるため宿で弁当を作ってもらった。



赤く染まる五ヶ所湾



田曾浦の奥に御座岬が顔を出している



浅間山からの朝日

8:30 宿を出発。昨日登ってきた道をさらに登る。これでも県道（722号）だが、車がほとんど通らないので気持ちよく歩ける。海拔100mほどの断崖の上を通っている道路だが展望はあまりない。



出発前の記念写真



歩き始めからの上り坂はつらかった

やがて県道から南海展望公園へ続く道へ入ると駐車場の先は長い階段となった。9:10 結構きつい階段を登りきったところが展望台（標高 149m）で一昨日から歩いてきた五ヶ所湾が見渡せた。



南海展望公園



スタート地点田曾浦からぐるりと五ヶ所湾が見渡せ感激



ニワ浜海水浴場と砂洲で区切られた海跡湖・大池



大池と相賀浦の家並

展望公園から県道へ戻り相賀（おおか）浦へ向かう。途中で備長炭の原料となるウバメガシを切り出している人と出会った。県道は所々で海が見渡せる崖の上に出る。ヘリコプターが近くを飛んでいたが10月17日に浜松沖で墜落した自衛隊ヘリコプターの漂流物の捜索だったことが後でわかった。

9:55 海へ下ったところのニワ浜海水浴場でトイレ休憩。砂洲の上の堤防の道を行く。相賀浦の集落が山にへばりつくように並んでいる。



ウバメガシの伐採



海蝕海岸の絶景

相賀浦は平家の落人伝説のある地。南伊勢町にはここを含め8つの落人集落があり（このうちの1集落は津波で流されてしまった）、製塩業で生計を立てていたため、塩竈の竈の字を集落名に付けている。浦は既に漁師がすんでいたため、少し奥に入ったところに落人集落ができたようだ。ここ相賀浦も竈方集落の一つ。毎年1月に竈方祭りと弓引きの神事が行われ伝統が引き継がれているようだ。集落の裏手に日露戦争と太平洋戦争で亡くなられた方々を追悼する石碑とお地蔵様が置かれている。



相賀竈の集落



戦没者の石碑とお地藏様

相賀浦からは国道 260 号へ戻り、だらだらと長い坂を登り標高約 100m の相賀浦トンネルをくぐって大江の集落へ出た。12:30 阿曾浦との分岐で昼食。阿曾浦から南島大橋を渡り慥柄（たしから）浦へ出る迂回ルートを描いていたが直進して国道を歩くことにした。途中道方をはさんで小さな峠を 2 つ超えた。田山花袋もこの道を歩き、紀行文「南船北馬」に峠越の厳しさと浦の絶景を書きしるしている。その一節を引用する。

「遂に大江村の人畑を樹林鬱蒼たる間に認めしが、此村を外る頃より足俄に重くなりて、かねて定め置きたる神前までは、いかにしても行かるべきやうなる心地せざるに、まだ日影高けれど、今宵は贅（にえ）にやどらんと心を決め、それよりはただただ牛の道草を食ふやうに、足を引き摺りて歩み行きぬ。

道方村よりは暫く絶えたるおもしろき海又も画のごとく見え始めて、慥柄に至るに及んで、その風景更に一層の美しさを加えたり。百軒足らずの人家は皆おもしろく海に向ひて、左より突出したる阿曾の海角は、右の細長き大石の鼻と相接触して、其間に基石のごとく散在したる島影の深紫なる海波の上に浮かび出たるさま、いと美し。かくて我はその慥柄町も過ぎて、その間僅かに十町にも足らざる贅（にえ）港へと進み行きたるが、今宵やどるべきその風情ある港をわが眼下にみおろせし時は、我は殆どわれを忘れて、手を打ちて一散にその阪を向へと走り下りぬ。

あはれ詩趣深きこの港よ。」

田山花袋「南船北馬」北紀伊の海岸から引用（一部送り仮名を変更）

花袋は大江村へ出るのに旧道の三浦峠（海拔 180m）を越えた。我々の歩いた国道はトンネルで超えている（最高地点約 100m）。トンネルのありがたさを感じた。



ニラ浜を歩く（左端の岬先端が止ノ鼻、その先が熊野灘）



大池を回って相賀浦へ



相賀浦トンネル



南島大橋入口（赤い橋が南島大橋）

13:56 南島大橋入り口近くの食堂に荷物を預け、南島大橋と阿曾浦大橋の親子橋を見に行つた。花袋が絶賛した景色を橋の上から眺めた。時折、橋の下を通過する漁船の白波や遠く熊野灘の海がきらめく様はいつまで眺めていても飽きないように思えたが、海岸線歩行の悲しさ、あまり長居ができないのが悲しい。後ろ髪を引かれながら阿曾浦大橋で引き返した。



中の磯展望台から贄湾奥を眺める



阿曾浦大橋から外洋方向・鷺倉半島の眺め

14:40 荷物を預けた食堂へ戻る。14:52 出発。新しく国道 260 号のバイパスができていますので迷い込まないように慥柄浦への道を行く。小さな峠を越えて慥柄浦へ出た（15:00）。

15:55 南島小学校

16:20 今宵の宿ニューまつおか着



浦から浦へは坂の上り下り



贄の集落から南島大橋を望む



贄湾の絶景



宿に到着

再び田山花袋の文章を引用する。花袋は疲れた体を宿で休めながら夕やみ迫る海を眺めていた。

「やがて蒼然たる暮色は幕のごとく大海の末を蔽ひて、十四日の月は水平線の上より俄然として躍り出てたるが、その光を受けたる萬頃の蒼波は、皆閃々として長蛇の如く活きて走りぬ。」

田山花袋「南船北馬」北紀伊の海岸から引用（一部送り仮名を変更）

残念ながら、この日の宿からは海が見えなかった。たとえ見えても、われわれグループは宿に着くと宴会になってしまい、詩的な感傷に耽る暇はない。この日も美味しい酒と料理に満足して床についた。

10月27日

晴れ。台風22号が近づいてきているため今日の歩行で終了し、明日帰ることとした。

8:25 宿を出発 荷物は宿に置き鵜倉園地を回ってくることにした。

8:40 鵜倉園地の入り口で少し迷い奈屋浦漁港に入ってしまった。漁港には遠洋漁業の大型漁船が入港していて、水揚げ場には尾を切られてセリにかけられるマグロが大きな桶に氷と共に入っていた。漁港の中から交通標識のあった道路へ出て、鵜倉園地への町道を歩く。9:10 かさらぎ池を通過。ここから道はだらだら登る。ほとんど車は通らないが、そのためか台風の影響で道路は落ちた小枝が散乱していて歩きにくいところもあった。



奈屋浦漁港



競り前のマグロ



かさらぎ池



台風21号の影響が残る鵜倉園地への道

10:18 見江島・かさらぎ展望台への分岐。展望台まで登らない甲田夫妻はそのまま直進し、あけぼの展望台へ向かった。
10:30 見江島展望台（標高約180m）
10:42 かさらぎ展望台
11:06 あけぼの展望台では無線でやり取りしながら何かを探している自衛隊員と出会った。さすがに何の捜索かは聞けなかったが、この後立ち寄ったお店の人から墜落機の備品が流されてきているらしいとの話であった。
ここからは単調な下りが続き、11:40 贄湾へ出た。



恋人の聖地、見江島展望台



ハート型にかさらぎ池が見える



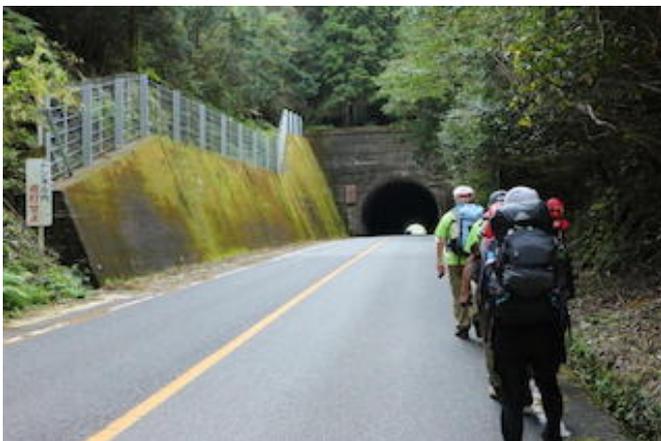
あけぼの展望台から親子橋を眺める

11:56 昨日歩いた鵜倉半島の付け根へ戻り、コンビニで休憩中の甲田夫妻と合流した。

12:03 宿の女将のお勧めの店で昼食。

13:00 民宿ニューまつおかに戻り荷物を持って今回のゴール神前を目指した。ここからは内陸の峠越えとなる。国道 260 号へ出ると歩道がない。すぐに東宮トンネルを通過する。長さは短いもののトンネル内も歩道がなく緊張を強いられた。

13:40 川端瑞賢公園。江戸時代に治水工事や鉱山開発などで大きな功績をあげた実業家の生誕地で立派な銅像が建っている。まだまだ登りが続き、14:05 東宮坂トンネル（標高 84m）この区間の最高地点を通過する。更に 2 つのトンネルを通過して河内に出た（14:58）。



中坂トンネル



河内トンネル

立派な松が道路へ張り出していたので何かと思って立ち寄ると史跡であった。「倭姫命（やまとひめのみこと）が天照大神（あまてらすおおみかみ）のご鎮座の地を探る旅の途中に、疲れを癒そうと休息をとった地」とされ、大きな碑の横には倭姫命が腰かけたと伝わる岩が残っている。夫婦松だったらしく、大きな切り株が残っている。

15:10 吉津港。 海岸沿いの道を海を見ながら歩く。この先は上り坂がないので気が楽になる。

15:40 神前浦 スーパーで買い物をしてから宿へ向かう。

15:55 民宿八方到着



倭姫命腰掛岩に立ち寄る



振り返って松を撮る（左手に切り株）



神前浦



細い路地を入り民宿八方へ到着

10月28日

雨

タクシーで紀伊長島へ出られるように宿の女将に昨夜タクシー会社と交渉していただいた。朝、宿の駐車場でタクシーに乗り込み、無事に帰宅できた。



民宿八方の女将はバイクで見送りに

予定を2日早く切り上げたため神前浦から紀伊長島駅間約25kmが残ってしまった。タクシーで通過しながらルートを確認したが2か所の峠越えがあり、標高差も大きく、南島トンネルは国道が整備され、歩道が完備している。少し前は「酷道」と言われていたのが見違える道路となっている。一方、錦から紀伊長島間は歩道のない国道である。来年春に向けて計画を吟味したい。

以上